

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）  
分担研究報告書

「眼科診療における二重障害者への対応調査、視覚障害の臨床データ収集と診療マニュアルと診療体制の確立」

研究分担者 氏名 森 秀夫  
地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター 眼科 主任部長

**研究要旨**

全国に14,000人の存在が推定される視覚聴覚二重障害者に対する医療、福祉、社会参加の包括的な体制確立を最終目標とし、その第一歩として視覚障害者の臨床データに基づく診療マニュアルを作成した。そのマニュアルの中で眼科問診と視覚障害の臨床診断の伝え方の項を作成した。

研究協力者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

**A．研究目的**

全国に14,000人の存在が推定される視覚聴覚二重障害者に対する医療、福祉、教育、ひいては社会参画への包括的な体制を確立すること。

**B．研究方法**

先天性および若年性視覚聴覚二重障害患者の辛勝情報を収集し、その原因を臨床像に基づく診療マニュアルを作成する。

(倫理面への配慮)

**C．研究結果**

今年度は診療マニュアルの公表ができたが、そのマニュアルの中で眼科問診と視覚障害の臨床診断の伝え方の項を作成した。

**D．考察**

視覚聴覚二重障害の包括的診療には眼科医と耳鼻科医との連携が不可欠であるが、これまでは眼科と耳鼻科がそれぞれ単独で患者に対応してきた。このマニュアルが相互の架け橋となることが望まれる。

治療として耳鼻科的には人工内耳が確立されているが、今後は遺伝子治療や再生医療、人工網膜などの治療が視覚聴覚二重障害に応用されることが期待される。

**E．結論**

視覚聴覚二重障害の包括的診療には眼科医と耳鼻科医との連携が不可欠であるが、これまでは眼科と耳鼻科がそれぞれ単独で患者に対応してきたが、このマニュアルが相互の架け橋となることが望まれる。

**F．研究発表**

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
森本孝子、森 秀夫：盲聾（叻）2重障害：Usher 症候群の1例．第36回都ノ桜眼科勉強会 2019/2/16 大阪市立総合医療センター

**G．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）**

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし